

生駒十三峠から平群桃源郷を歩く



◇日時: 2022年(令和4年)4月18日(月)、天気 晴れ

◇集合: 9:40 ① 近鉄服部川駅

10:30 ② 近鉄信貴山口駅

◇行先: ① 服部川駅～業平道～十三峠～平群桃源郷～平群駅

② 信貴山ケーブル高安山駅～十三峠(①に合流)

◇参加者:MNC山歩会 16名(男8、女8)

① 11名(男6、女5)リーダー:小山

② 5名(男2、女3)リーダー:村瀬

コースタイム

①近鉄服部川駅 9:40～神立茶屋辻 10:25～水呑み地藏 11:10/11:20～十三峠(11:45～昼食～12:40)

②近鉄信貴山ケーブル駅 10:25～高安ケーブル駅～十三峠(12:15～昼食～12:40)・合流～杵築神社～桃源郷～霊園～藤田家住宅～藤田屋敷～近鉄平群駅 14:40 歩行 ①②約10km、6時間 高低差約350m

Hリーダー腰痛ドタキャン、JR環状線ストップと2重のトラブル、JR環状線復旧の見通しが立たないということで、一部の方には一旦中止としましたがその後復旧が早かったため時間を遅らせて実施しました。



本文

生駒山地に十三（じゅうさん）峠がある。ここは大阪玉造から伊勢へと向かう道筋で「十三街道」とよばれ、平安時代の歌人で「伊勢物語」の主人公在原業平が河内高安の女性の元に通ったとされることから、「業平道」とも呼ばれている。業平の見た風景に思いを馳せながら十三峠を越え花の平群桃源郷を歩く。

【在原業平と十三街道】

平安時代の六歌仙の一人「在原業平(ありわらのなりひら)」の恋物語ゆかりの地、十三街道。在原業平は、平安時代の歌人で、六歌仙の一人としてその名を残す人物です。

容姿端麗で、情熱的な和歌の名手であったといわれ、男女の恋愛にまつわる言い伝えが各所で残っています。

八尾市では、市内東部の高安地区に「業平の高安通い」として、はかない恋物語の言い伝えが残っており、業平が神立辻の茶屋「福屋」の娘(うめの)に会うために通った大和と河内をむすぶ十三峠の道が十三街道と呼ばれています。

【服部川駅より神立茶屋辻】

車の往来に注意しながら八尾市民俗資料館前、神立地蔵堂を経て神立茶屋辻に向かう。この辺り植木屋が多く、ユーカリ、ミモザ等の栽培が見受けられた。

【神立茶屋辻～水呑地蔵】

この街道はむかし大阪玉造と大和竜田を結ぶ重要な道筋にあたりこの辻には多くの茶屋が並んでいたのものでその名がある。また在原業平と茶屋娘の恋物語りで名高い。業平が峠を越え玉祖神社へ参詣の途中、福屋の娘梅野をみそめたが、ある夜東窓があいていたので中をのぞくと、娘が手づからでめしを食っているのを見て、急に興ざめ逃げ帰った、娘は後を追ったが見あたらず悲んで淵に身を投げた。この高安の里では、今でも東窓を忌み、これをあけると娘の縁が遠くなるとう伝説がある。



神立茶屋辻を過ぎると急な上り坂が続く。神立地蔵堂の前に1番目の地蔵様一対があり、水呑地蔵まで、33ヶ所一対66体のお地蔵様が並べられている。参道は、展望も開かず黙々と上る。ヤマザクラも終わり花も少ない中、アオキの赤い実、ウワミズザクラ、ウラシマソウの群落、ホウチャクソウの花が癒してくれました。



ウワミズザクラ



ウラシマソウ



ホウチャクソウ



地藏様

【水呑地藏】

承知三(八三六)年、僧壹演がここに地藏菩薩を安置して堂宇を 設けたという。本堂の南側に小祠があり、石地蔵の前に二つのつぼがある、こんこんと清水がわいていて、俗に「弘法水」という弘法大使が山麓から急坂を登って、このすぐ上の十三峠を越える旅人のために祈願して得た霊水という。



水呑地藏 山歩会 2022.4.18

水呑地藏で

【十三峠】

11時15分 十三峠駐車場につく。ケーブル組を待つ。ケーブル組の所在地携帯電話で確認するも出来ず、先に昼食をとることにする。

12時20分 ケーブル組着 予想より早い。すぐに昼食。



駐車場にて



ケーブル組十三峠にて昼食

【十三峠～桃源郷～平群駅】

十三峠からカーブが続く車道を車に注意しながら、杵築神社、桃源郷へと歩く。杵築神社を過ぎると棚田が広がり、マルチに覆われた畑、新芽を伸ばした畑が続く。すべて小菊畑とのこと。平群の夏秋の切り花小菊は日本一と云われる。平群の町花は菊で、マンホールの蓋にもデザインされている。

桃源郷は花の盛りは過ぎていたがサトザクラ、モクレンは残っていた。



平群桃源郷で



桃源郷を歩く



モクレン

リーダーの変更、JRストップの中、行事の中止決行、参加者の把握、集合時間の変更等、電車の中での携帯電話による協議、また、2組に分かれての登山、互いの位置確認、連絡等も携帯電話圏外のためスムーズに行うことができずドタバタの1日でした。無事終えることができたことに感謝。



文/写真/編集/ 小山(平山)

武庫ネイチャークラブ 山歩会